

下伊那地域の竹林整備と、竹林から集荷される「タケノコ」のブランド化

取組に至る背景・事業の目的

下伊那地域の竹林面積は、長野県全体の約4割を占めており、良質なタケノコの産地です。このタケノコをこの地域の資源として活用し、ブランド化を図ることを目的として、下伊那地域の5団体が共同で取り組む「南信州たけの子プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトにおける、NPO法人だいちの役割は、タケノコの生産・集荷を推進する事となっています。この事業を利用して ①タケノコの安定的集荷を図るための竹林整備 ②タケノコ集荷量の把握 ③ブランド化を図るための統一規格の作成 ④竹林整備時に発生する間伐竹の有効利用 ⑤タケノコ加工時に発生する皮の有効活用を推進する取り組みを実施しました。

事業内容

下伊那地域のタケノコを資源として活用するため、竹林整備の講習会、集荷管理のデータベース作成、ブランド化に向けたロゴマークの作成を実施した。また、粉碎機を導入し、タケノコ加工時に出る皮を資源として活用した。

事業効果

竹林整備・生産講習会(座学及び実技指導)では、福岡県より竹林活用アドバイザーである野中氏を講師に迎え「竹林整備法」「生産性向上」等の講義をいただき、竹林での整備作業実技を行ないました。下伊那地域のほか長野市からの参加もあり、質疑応答が多く、習得した技術を即活用出来る機会となりました。また、実施後生産者組合が立ち上がり、竹林整備や集出荷体制の構築が図られた地区もありました。

集荷管理のデータベース作成について、この年は生産量が極少であり小規模なデータ収集となりましたが、継続して情報収集を実施し南信州産タケノコの発生状況について、貴重なデータベース構築が出来ました。

ブランドロゴマークの作成によりブランド力の向上につながり今後の生産、集荷、商品開発への取り組みへの弾みとなりました。



【竹林整備の様子】



【講習会の様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

講習会には、県下伊那地方事務所林務課に講師の選定等の協力をいただき、予想を超える方に出席いただく事ができました。

生産量データ収集については、南信州全域からの集荷を報道媒体に協力いただきながら周知しましたが、天候の影響から発生量が極めて少なく少量のデータとなってしまいました。継続して収集し南信州産タケノコの貴重なデータベース構築をさらに進めたいと思います。

南信州産タケノコ製品は、飯田下伊那地区の小学校・保育所の給食食材として利用をいただき好評を得る事ができました。安定的な生産量の確保及び拡大に期待する給食現場の声が多く聞かれました。この事業を通じて、生産者からブランド化への関心の高さが伺え、今後も引き続き竹林整備、生産性の向上につながる活動を継続し「南信州たけの子」のブランド化を進め、農家の所得増につながるよう事業継続していきたいと思ひます。

【選定のポイント】

タケノコの質を上げブランド化を図るため、この地域のタケノコ生産者を巻き込み、技術向上、出荷管理の合理化に貢献している。また、竹林整備の講習会、ロゴマークづくり、集荷のためのデータベース作成など総合的に取り組んでいる点はモデル的である。

| | | | |
|-----|------------------------|-------|------------|
| 団体名 | 特定非営利活動法人 だいち (豊丘村) | 事業タイプ | ソフト・ハード事業 |
| 連絡先 | 0265-34-2520 | 事業費 | 2,715,400円 |
| | | 支援金額 | 2,229,000円 |